

院内研究大会

第 10 回医療マネジメント大会

2008. 2. 6

移植医療についての啓発活動

院内移植コーディネーター 田形 勝至 松村 葉子

院内移植コーディネーターの役割の中に職員に対しての臓器移植医療推進のための啓発活動がある。今回も院内医療安全マネジメント大会の場を借りて移植医療についての最新の情報提供や腎臓移植などの簡単な解説を行う。

平成 9 年 10 月に臓器移植法が施行され 10 年以上経ち、平成 21 年 1 月 17 日までに、脳死からの提供は 79 症例で、同じ赤十字病院系列では 5 病院 7 症例となっている。当院の現状は平成 14 年に脳死に近い心停止の患者からの献腎・献眼が 2 症例、平成 18 年、20 年に献眼の 2 症例である。

意思表示カード所持の普及率も年々増加傾向にあるが、意思表示カードの提供したい臓器記載欄に○が記載されていても、医学的理由からドナー適応基準にあてはまらず臓器提供ができない残念な場合がある。移植臓器の種類によって多少異なるが、全ての臓器にあてはまる主な基準は①感染症、②悪性腫瘍（原発性脳腫瘍及び治癒したと考えられるものを

除く）、③クロイツフェルト・ヤコブ病及びその疑い、④三週間内に WHO が発表している SARS の「最近の地域内伝播」が疑われる地域への海外渡航歴がある場合、⑤年齢制限などである。

レシピエント選択基準は（腎臓に関して）臓器移植ネットワークの登録者の中か次のような基準で選定するしくみになっている。

- 1 前提条件は ABO 式血液型の一致、リンパ球直接交差試験（全リンパ球又は T リンパ球）陰性、
- 2 優先順位は①臓器搬送時間（阻血時間）、② HLA 型の適合度、③待機日数、④小児ポイント（16 歳未満）でこれらの四つの合計点数が高い順で同都道府県内またはブロック内他都道府県の登録者の中から選定するしくみになっている。患者さんや家族の意思が尊重できるよう当院には二人の院内移植コーディネーターがいます。臓器移植についての問い合わせは気軽にご相談ください。

透析中の地震を想定した避難訓練を実施して

人工透析室 小林 桂子 小笠原晴美

I. はじめに

昨今、各地での地震が多数発生している。東海地震が危惧されている静岡県では幸いにも未だ大きな地震はおきていないが、いつおきても不思議ではない状況にある。今回、緊急離脱方法の変更に伴い、透析中の患者を対象に避難訓練を行ったので報告する。

II. 方 法

第一段階として職員のみでの訓練で、災害発生から緊急離脱・避難誘導まで統一した手技・技法で行えるよう確認する。

第二段階は透析シフト毎に計 4 回、患者も参加しての訓練を行う。

震度 6 の地震により建物崩壊の可能性ありという